

東遷基業

第二十

簡

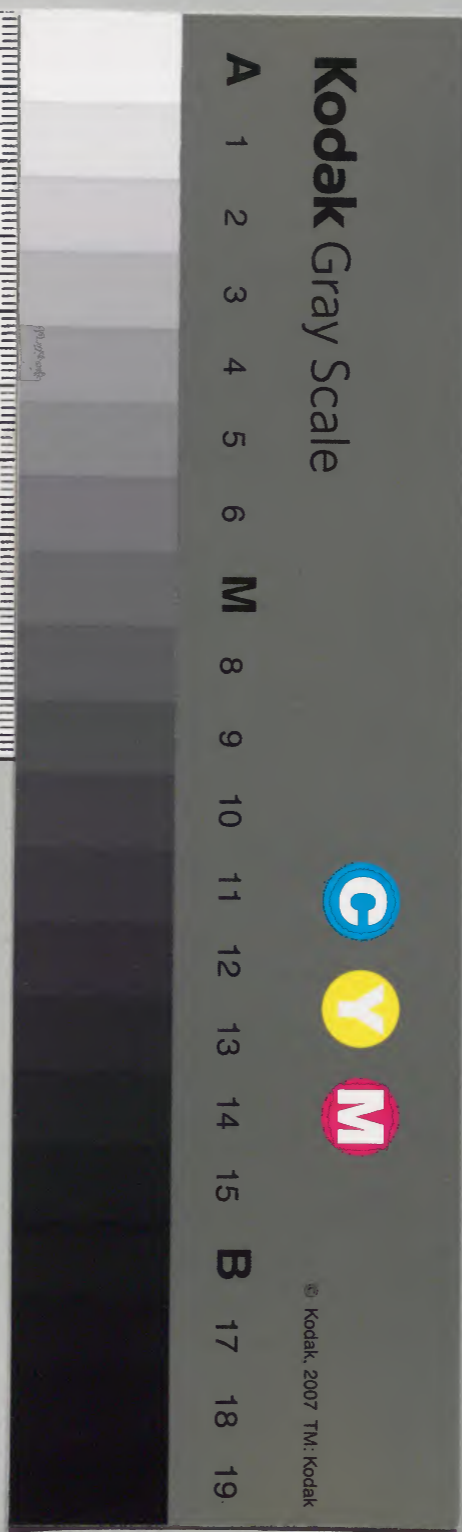
和書門					
三	一	一	六	號	類
冊	架	函			

庫文閣内	
一四八函	三三二一六號
一九架	三〇冊

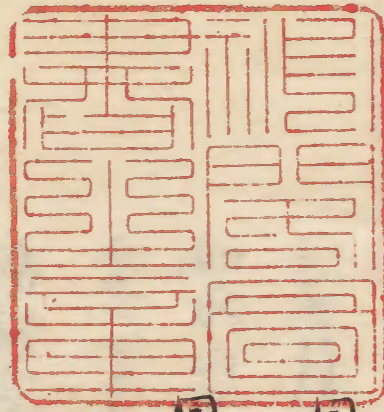
154
閣

内閣文庫	
番號	和 33116
冊數	30( 20)
函號	148 109

共三十

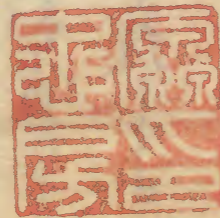






東遷基業卷第二下目錄

玄圃齋藏



同年 皇尚如水公降附大友義統卷之三の事

同年 石原系合致附大友義統降の事

同年 安波尾来城攻附海戦の事

同年 宇土城攻附小川合致の事

同年 宗前秀包降附江上合致の事

玄圃齋藏

































らんしき... 白くもむ... 例に... 先達と  
見... 宗... 甲... 乙... 丙...  
... 柳... 宗... の... 後...  
... 中... 二... の... 比... 所... せ...  
... 後... 上... 上... 上... 上... 上...  
... 朱... 宗... の... 大... 宗... 宗...  
... 比... 比... 比... 比... 比...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...

... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...  
... 宗... 宗... 宗... 宗... 宗...





























昔御あはれはなればよ同名をえんたうをこそ思はんと申す  
先人遺徳を思ふにこそ申す御恩は御恩にこそ思はんと申す  
まゝに思ふにこそ思はんと申す

一 大坂の御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

九月十七日

如水様  
きん

御恩

去程より御恩にこそ思はんと申す  
まゝに思ふにこそ思はんと申す

大坂の御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す

一 御子と申す御恩は御恩にこそ思はんと申す



しんごいせい

講求問目

同日大友義統を志すものありて夫固の志を  
 申出ると好むべしといふ所の事なり群を配するの  
 あり一法を以ては年中御事の事安んず法より  
 して名よき事ありて是れ固一を統とて一を  
 一固事の事なりといふなり中御事の事と  
 令法を揚りて一法を以ては年中御事の事  
 せしめ一を以ては年中御事の事なり  
 ての法を以ては年中御事の事なり  
 ありし事なりて法を以ては年中御事の事  
 官上る夫の事柄の事なり

いづれ固一を以ては年中御事の事なり  
 一を以ては年中御事の事なり  
 ありし事なりて法を以ては年中御事の事  
 官上る夫の事柄の事なり

善哉... 足付に切腹せしむるは日永は是より...  
平... 流... せり...

同日... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...

同日... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...

同日... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...  
... 津門... 松井... 松井... 松井... 松井...



































百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

百重子名印は法苑百子提録の條有るに、いふ事有るに、ていふ

治世に八代入道は神のまじりと信するも一年に別被給  
りし事あるに似たりと雖もなしくしられし後信とていふに  
も思ふに似たりとていふに別と信との相見よりなれども  
此の事や一年に君をたてしむるに八代より後信とていふ  
と信とを考へ隊長を打たしむる事とていふ相見なる事と  
この事と子孫八代の名をいふ事とていふ事とていふ事と  
八代の後信といふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
八代等といふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
信の隊とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
と目を見し事とていふ事とていふ事とていふ事と  
事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
八代信の事とていふ事とていふ事とていふ事と

2  
持世も信のよりけりといふ事とていふ事とていふ事と  
二と信とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
持世見し事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ありとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ありとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
信人といふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ありとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
物ありとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
組代といふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
よりとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と

































尋のめはつらうと池せうと類すといふこと  
んしはと者飲のすも又公飲の後ゆく 田舎(はま  
のほろとま)しつらうのまは<sup>ち</sup>事 過るは之のまのめ  
ましつらうとまはつらうとま

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, likely a library inventory or administrative record.]*

